

年 組 名前：

県内農家 65歳以上7割

県内では高齢者の農業事故が絶えない。農家の現状について、農林水産省関東農政局山梨県拠点の担当者に聞いた。

同省が発表した2020年の「農林業センサス」によると、県内で農業を主な仕事とする「基幹的農業従事者」は2万500人で、5年前の前回と比べ4207人(17.0%)減少。1990年(約4万2000人)からの30年間でほぼ半減した。

65歳以上が占める割合は74.0%となり、前回から3.2ポイント上昇。全国(69.8%)と比べても高齢化が著しい。県の調査では、新規就農者は4年連続で300人を超えているが高齢のため農業をやめる人がその数を大きく上回っている。

一方、県内の耕地面積は2万3500㌦で、

県面積の5.3%に当たる。耕地を利用している種類別割合を全国(北海道を除く)と比較すると、水田は他都府県が66.7%だったのに対し、山梨は33.1%。反対に樹園地は他都府県の8.3%に対し、山梨は42.8%に上り、「果樹農業に特化した県であることがよく分かる」(担当者)。

農業従事者の減少に伴い生産量が減った農産物もあるが、日本一の生産量を誇るブドウと桃を合わせた栽培面積は、1990年を100として見た場合、19年は80にとどまり「農業従事者の減少幅ほど減っていない」と担当者。「高齢化が進んでいるものの、機械化などによる作業効率の向上、農業法人の増加が補っている」とみている。

〈古守彩〉

(2021年4月9日付 山梨日日新聞 15面)

問1 2020年の農林業センサスによると、県内で農業を主な仕事とする基幹的農業従事者は、30年前の1990年に比べ約何%減少しましたか。

「約 %」

問2 全国の都道府県の中で、山梨が(果樹農業に特化した)「果樹王国」の一つであると言われる理由は何ですか。

.....

問3 あなたは、農業従事者の減少に歯止めをかけるためどんな施策などが必要だと思いますか。具体的に書いてください。

.....

.....

.....